

医療通訳の必要性

-外国人と医療の現状から何が必要なのか、 どう取り組むかを考えます-

日本を訪れる外国人旅行者は昨年、初めて年間1000万人を突破しました。熊本でも、年間192,213人（2011年熊本市より）の方が来熊し、観光を楽しんでいます。全体の7割はツアーではなく、個人旅行者が占めているそうです。

このような中、旅先で急病、けが、事故にあったらどうするのでしょうか？病院に行っても、日本語がわからない.....何をどう伝えていいのか???受け入れる病院も本人もお互いに困ってしまいます。病院を受診するのは、旅行者だけではありません。在住外国人の方々も同じように受診します。彼らも日本の医療システムや病状を伝えることに不安を感じています。受診した際、適切な医療を安心して受けられるようにするには、どのような仕組みが必要なのでしょう？

■開催日時等

日時 2014年3月22日（土）14:00～16:00
場所 熊本市国際交流会館 4F 第3会議室（熊本市中央区花畑町4-18）
定員 80名 参加費 無料

■内 容

・パネルディスカッション

テーマ『医療通訳とは？その現状は？』

『医療通訳の課題とニーズ、そしてその取り組み方』

実践発表 ー 医療通訳を必要とする病院

発表者：山口 充氏（国立病院機構熊本医療センター）予定

ー 医療通訳体験者

発表者：朱 玉梅氏（KIF多文化共生ソーシャルワーカー）

パネリスト：羽賀 友信氏

（KIF多文化共生アドバイザー・新潟県長岡市国際交流センター長）

最相 博子氏

（メディカルサポートくまもと代表・熊本同時通訳者協会代表）

コーディネーター：八木 浩光（KIF事務局長）

お申し込み・問い合わせ

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団 多文化共生オフィス

TEL:096-359-4995 FAX:096-359-5783

E-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp

<http://www.kumamoto-if.or.jp>